

# 大学生女子の喫煙に関する研究

## —岡山県内A短期大学について—

### A Study on the Smoking Habits of Female Students : Female Students in a Certain Junior College in Okayama Prefecture

(1994年4月8日受理)

荒木タミ子 谷本 満江 藤井 真理\* 高戸 仁郎\*\* 山口 立雄\*\*\*  
Tamiko Araki Michie Tanimoto Mari Fujii Jinro Takato Tatsuo Yamaguchi

Key words : 喫煙率, 有害, 出産

## I. はじめに

日本における喫煙率が年々低下する傾向にある中、20才代および30才代の女性の喫煙率は増加傾向を示している<sup>1)</sup>。女性は妊娠、出産を担う性であり、喫煙がこの女性特有の役割に及ぼす悪影響については種々の指摘がなされている<sup>2), 3), 4), 5)</sup>。従って、妊娠、出産を間近に控えた年代が対象である大学の健康教育プログラムの中に、喫煙の有害性に関する単元を設け実施することは重要な課題であると考えられる。

以上の観点から本研究では、教授の直接の対象である大学生女子の喫煙実態を調査し、喫煙防止教育実施上の資料を得ることを目的とした。

## II. 方 法

調査対象は岡山県内A短期大学1993年度在籍の女子学生とし、1993年6月下旬から同年7月上旬の間に質問紙による調査を実施した。調査用紙の作成にあたっては先行研究の質問文<sup>6), 7), 8), 9)</sup>等を参考にした。回答はこの無記名自記式質問紙による配布・回収法で、体育実技または保健体育講義の授業において担当教師が集めた。結果の集計には岡山大学総合情報処理センターの電算機を用い統計的処理を行なった<sup>10)</sup>。

## III. 結果と考察

質問紙の配布、回収状況を表1に示した。質問紙配布対象805人より760通の回答が得られ、回収率は94.4%であった。この内、喫煙習慣に関して無記・不明であった15通を除いた745通を有効回答とし分析の対象とした。有効回答数は調査時在籍数の50.6%であった。

調査対象者の年齢は、18才が444人(59.6%)、19才が258人(34.6%)、20才が41人(5.5%)、無記・

\*中国短期大学非常勤講師

\*\*岡山県立大学保健福祉学部

\*\*\*岡山大学教養部保健体育教室

不明が2人(0.3%)であった。学年は1年生が582人(78.1%)、2年生が161人(21.6%)、無記・不明が2人(0.3%)であった。

## 1. 喫煙習慣について

喫煙習慣別人数を表2に示した。喫煙者は50人(以下喫煙群)で喫煙率は6.7%であった。非喫煙者は695人で非喫煙率は92.2%であった。非喫煙者の内訳は、過去も現在も喫煙していない非喫煙者が635人(以下非喫煙群)で85.2%、過去に喫煙経験がある非喫煙者が58人(以下前喫煙群)で7.8%、吸ってみたいと思っている者が2人(以下喫煙予備群)で0.3%であった。

田中ら<sup>11)</sup>は広島県内の某女子短期大学1年生の喫煙率を5.9%と報告している。また、藤井ら<sup>12)</sup>は岡山県内の私立短期大学の女子の喫煙率を5.3%と報告している。従って、本調査の喫煙率6.7%は、同種の学校種別で比較するとほぼ近い値であると考えられる。しかし、岡山県内の4年制大学の1.0%<sup>12)</sup>と比較するとやや高い値であると考えられる。

表1. 調査対象および回収率

在籍数	1472人
調査票配布数	805通
回収数	760通
回収率	94.4%
有効回答数	745通

表2. 喫煙率

	N (%)
喫煙群	50 ( 6.7)
非喫煙群	635 ( 85.2)
前喫煙群	58 ( 7.8)
喫煙予備群	2 ( 0.3)
合計	745 (100.0)

## 2. 喫煙群について

### 1) 喫煙する理由

喫煙群の喫煙する理由を表3に示した。回答の多かった項目は順に、「ストレス解消」が68.0%、「習慣になっている」が58.0%、「落ち着く」が48.0%、「手持ちぶさたの解消」が36.0%、「おいしい」が30.0%等となった。逆に、喫煙の理由として少なかった項目は、「大人っぽく見える」と「男女平等を主張できる」が0.0%、「社交の小道具になる」と「集中力が高まる」が2.0%、「ダイエットに効果がある」が6.0%であった。これらの結果を藤井ら<sup>12)</sup>の報告による岡山県内の調査結果と比較すると、項目の順位も数値もほぼ同様であった。以上より、喫煙する理由には個人の精神的、心理的なものが強く作用しており、外部に対して自己を表現する意味付けはきわめて弱いと考えられる。

表3. 喫煙する理由(喫煙群・50人)

	回答数 (%)
おいしい	15 (30.0)
ストレス解消	34 (68.0)
手持ちぶさたの解消	18 (36.0)
集中力が高まる	1 (2.0)
落ち着く	24 (48.0)
ダイエットに効果がある	3 (6.0)
社交の小道具になる	1 (2.0)
大人っぽく見える	0 (0.0)
男女平等を主張できる	0 (0.0)
習慣になっている	29 (58.0)

<複数回答>

2) 喫煙開始年齢について

喫煙群の喫煙開始年齢を表4に示した。回答の多かった年齢は、順に、16才が30.0%、15才が18.0%、17才が16.0%で、中学、高校時代が多いという結果であった。田中ら<sup>11)</sup>は初回喫煙の時期は高等学校時代が多いと報告しており、藤井ら<sup>12)</sup>は喫煙開始時期を高校、大学時代が多いとしている。本調査の結果は、これらの報告とほぼ同じであった。

3) 喫煙本数について

喫煙群の1日の喫煙本数を表5に示した。回答が多かったのは、順に、10本が26.0%、5本が20.0%、20本が14.0%であった。この結果は藤井ら<sup>12)</sup>の報告とほぼ一致した。

表4. 喫煙開始年齢 (喫煙群について)

年 齢	人数 (%)
12	1 ( 2.0)
13	3 ( 6.0)
14	5 (10.0)
15	9 (18.0)
16	15 (30.0)
17	8 (16.0)
18	6 (12.0)
19	2 ( 4.0)
無 記	1 ( 2.0)
合 計	50 (100.0)

表5. 喫煙本数 (喫煙群について)

本 数	人数 (%)
2	1 ( 2.0)
3	4 ( 8.0)
4	1 ( 2.0)
5	10 (20.0)
6	3 ( 6.0)
7	3 ( 6.0)
10	13 (26.0)
15	5 (10.0)
20	7 (14.0)
30	1 ( 2.0)
無 記	2 ( 4.0)
合 計	50 (100.0)

3. 喫煙しない理由

非喫煙群と前喫煙群の喫煙しない理由を表6に示した。回答が多かった項目は、非喫煙群では多いほうから順に「喫煙に関心がない」が71.5%「健康を害する」が69.9%、「煙が不快」が63.5%、「妊娠出産に悪影響」が60.6%であり、前喫煙群では「健康を害する」が67.2%、「妊娠出産に悪影響」が48.3%、「外見的に印象が良くない」が46.6%、「喫煙に関心がない」が39.7%の回答であった。

両群の項目を比較すると順位と内容に若干の違いが見られる。即ち、順位についてみると非喫煙群で

表6. 喫煙しない理由 (非喫煙群・635人) (前喫煙群・58人)

回答数 (%)

	非 喫 煙 群	前 喫 煙 群
健康を害する	444 (69.9)	39 (67.2)
美容に悪い	210 (33.1)	18 (31.0)
他者の健康を害する	268 (42.2)	13 (22.4)
喫煙に関心がない	454 (71.5)	23 (39.7)
妊娠出産に悪影響	385 (60.6)	28 (48.3)
煙が不快	403 (63.5)	16 (27.6)
恋人に嫌われる	93 (14.6)	17 (29.3)
家庭で禁止されている	73 (11.5)	11 (19.0)
法律で禁止されている	64 (10.1)	8 (13.8)
外見的に印象が良くない	300 (47.2)	27 (46.6)

<複数回答>

は「喫煙に関心がない」が第1位であるのに対し、前喫煙群では「健康を害する」, 「妊娠出産に悪影響」が上位を占め、健康被害が意識されているようである。内容については、非喫煙群で「煙が不快」が上位にあげられ、前喫煙群では「外見的に印象が良くない」が上位に位置している。非喫煙群では個人レベルの理由が主であるのに対し、前喫煙群は他者への意識が多少見られるのではないかと考えられる。また、各項目への回答率をみると、非喫煙群では6割を越えたものが4項目あるのに対して前喫煙群では1項目のみであり、非喫煙群の方が喫煙しない理由を多く持っていると考えられる。

喫煙防止教育の観点からみると、「喫煙に関心がない」という理由が上位にあることは歓迎すべき結果ではない。学習者が明確な理由をもって喫煙しないという行動を選択することが、喫煙防止教育プログラムの最終的な目標となるからである<sup>13), 14), 15), 16), 17)</sup>。関心が無いという状態は非常に不安定で、何時、如何なる契機で喫煙者にならないとも限らない。女性の喫煙開始年齢は各年代に広く分散しているという指摘<sup>18)</sup>もあり、喫煙率が低いという状態のみに満足することなく、喫煙しないことの積極的価値を理解させることの重要性が示唆された。

回答が少なかった項目は、非喫煙群では「法律で禁止されている」が10.1% 「家庭で禁止されている」が11.5%, 「恋人に嫌われる」が14.6%であった。前喫煙群では「法律で禁止されている」が13.8%, 「家庭で禁止されている」が19.0%であった。両群とも上位2項目が同じで、法律、家庭を問わず「禁止」という理由は拘束力が無いと思われる。ただ、数値をみると両項目とも前喫煙群の方が僅かに大きく、法律または家庭により禁止された結果、禁煙した者がいる可能性を窺わせる。

#### 4. 喫煙してみたい理由

現在は非喫煙者であるが喫煙願望がある者2人の喫煙してみたい理由を表7に示した。「落ち着けそう」, 「手持ちぶさたの解消になりそう」, 「男女平等を主張できそう」があげられた。少数で多寡や傾向を検討できないため藤井ら<sup>12)</sup>の報告を参考までに引用すると、回答の多いほうから順に「ストレスの解消になりそう」が71.4%, 「落ち着けそう」が57.1%, 「タバコはおいしそう」が35.7%, 「手持ちぶさたの解消になりそう」が14.3%等となっており、回答の少ない方は「男女平等を主張できそう」が0.0%で「大人っぽく見えそう」と「興味がある」がともに7.1%等となっている。

表7. 喫煙してみたい理由 (喫煙予備群・2人)

	回答数 (%)
ストレスの解消になりそう	0 ( 0.0)
落ち着けそう	1 (50.0)
おいしそう	0 ( 0.0)
手持ちぶさたの解消になりそう	0 ( 0.0)
ダイエットに効果がありそう	1 (50.0)
社交の小道具になりそう	0 ( 0.0)
集中力が高まりそう	0 ( 0.0)
大人っぽく見えそう	0 ( 0.0)
興味がある	0 ( 0.0)
男女平等を主張できそう	1 (50.0)

<複数回答>

#### 5. 周囲の喫煙状況について

周囲の喫煙状況を喫煙習慣により分けた群ごとに表8に示した。

##### 1) 全体の傾向について

回答全体では「父親のみ」が51.7%, 「仲の良い友人」が39.2%であり、次いで「好きな有名人」, 「恋人」, 「兄・姉」, 「祖父母」が20%弱で並んだ。父親の喫煙率は「両親ともに」の4.0%を加える

表 8. 周囲の喫煙環境

回答数 (%)

	全体 (N=745)	喫煙群 (N=50)	非喫煙群 (N=635)	前喫煙群 (N=58)	喫煙予備群 (N=2)
1. 父親のみ	385 (51.7)	26 (52.0)	331 (52.1)	27 (46.6)	1 (50.0)
2. 母親のみ	14 (1.9)	0 (0.0)	13 (2.0)	1 (1.7)	0 (0.0)
3. 両親ともに	30 (4.0)	4 (8.0)	24 (3.8)	2 (3.4)	0 (0.0)
4. 兄・姉	135 (18.1)	17 (34.0)	105 (16.5)	12 (20.7)	1 (50.0)
5. 弟・妹	29 (3.9)	5 (10.0)	21 (3.3)	3 (5.2)	0 (0.0)
6. 祖父母	130 (17.4)	10 (20.0)	114 (18.0)	6 (10.3)	0 (0.0)
7. 仲の良い友人	292 (39.2)	43 (86.0)	218 (34.3)	31 (53.4)	0 (0.0)
8. 恋人	137 (18.4)	28 (56.0)	88 (13.9)	21 (36.2)	0 (0.0)
9. 好きな有名人	145 (19.5)	10 (20.0)	117 (18.4)	17 (29.3)	1 (50.0)
10. 尊敬する教師	80 (10.7)	4 (8.0)	70 (11.0)	6 (10.3)	0 (0.0)

〈複数回答〉

と約56%となる。母親の喫煙は「母親のみ」が1.9%であり「両親ともに」の4.0%を加えると約6%となった。「弟・妹」は3.9%であった。

全国調査による1990年の成人喫煙率は、男性が61%で女性が14%である<sup>1)</sup>。両親の喫煙率をこの全国値に対する割合を計算すると、父親の喫煙率が約1割低いのに対し母親は約4割低い。従って、両親とも全国値よりも低いが、父親に比べて母親の喫煙率の方がやや低いと思われる。しかし、藤井ら<sup>2)</sup>による岡山県内の国立4年制大学対象の同様の調査によれば、父親の喫煙率が48%、母親が4%であり、県内大学全体では父親が55%、母親が5%である<sup>12)</sup>ので、同一地域あるいは大学種別で比較すると両親とも喫煙率がやや高いことが考えられる。

兄弟姉妹の中では「弟・妹」の喫煙率が「兄・姉」より低いのは、調査対象がほぼ未成年であることに起因する。

## 2) 喫煙群について

喫煙しているという回答が多かった項目は順に「仲の良い友人」が86.0%、「恋人」が56.0%、「父親のみ」が52.0%、「兄・姉」が34.0%、「祖父母」と「好きな有名人」が同値で20.0%等となった。喫煙しているという回答が少なかった項目は、少ない方から順に「母親だけ」が0.0%、「両親ともに」と「尊敬する教師」が8.0%、「弟・妹」が10.0%であった。

回答が50%を越えたのは「父親のみ」、「仲の良い友人」、「恋人」の3項目であった。他群で50%を越える数値があるのは非喫煙群の「父親のみ」だけであり、前喫煙群では「仲の良い友人」だけであることから、喫煙群の周囲には他群よりも喫煙者が多く存在するものと考えられる。藤井ら<sup>12)</sup>の報告と比較すると「父親のみ」と「恋人」の順位が逆転しているが、項目の順位も数値もほぼ同様であった。子供にとって父親は「大人のモデル」であり「生き方の手本」とされ<sup>22)</sup>、また、友人、恋人関係は価値観や行動パターンをお互いに容認できなければ成立しないであろうから、喫煙者の周囲には心理的に親密な関係にある喫煙者が多く存在することは当然と考えられる。『女子学生の喫煙行動を規定しているのは異性の友人』<sup>23)</sup>という記述から、友人よりも更に強い結び付きをもつ恋人の影響力は大きいと推察できる。

「弟・妹」に10.0%の回答があったことは注目に値する。絶対値は小さいものの本調査対象者よりも更に若年の未成年喫煙者の存在を示している。また、数値が他群よりも2乃至3倍大きい。上述の如く、喫煙者本人の喫煙習慣の形成は身近な者の喫煙により促進される。その意味では本調査の喫煙

群は模倣者であるが年下の弟・妹に対しては逆にモデルとなったと考えられる。自らの喫煙が自身の健康を害すると同時に、このような機能を持つことを喫煙者に知らしめるが重要と考えられる。

### 3) 非喫煙群について

喫煙しているという回答の多かった項目は順に「父親のみ」が52.1%、「仲の良い友人」が34.3%であった。「好きな有名人」、「祖父母」、「兄・姉」がほぼ同値でそれぞれ18.4%、18.0%、16.5%であった。喫煙しているという回答が少なかった項目は、少ない方から順に「母親だけ」が2.0%、「弟・妹」が3.3%、「両親ともに」が3.8%であった。

「父親のみ」への回答が一番多いことは喫煙群と同じであり、その数値も同様である。しかし、回答の数値が50%を越えたのはこの1項目だけであり、また、次に多かった「仲の良い友人」も喫煙群の半分以下であった。このことから、喫煙群に比べ、非喫煙群の周囲には喫煙者が少ないと考えられる。

### 4) 前喫煙群について

喫煙しているという回答の多かった項目は順に「仲の良い友人」が53.4%、「父親のみ」が46.6%で「恋人」が36.2%、「好きな有名人」が29.3%等であった。回答が少なかった項目は、少ない方から順に「母親だけ」が1.7%、「両親ともに」が3.4%、「弟・妹」が5.2%等であった。

喫煙群、非喫煙群の1位が「父親のみ」であるのに対し、この群では「仲の良い友人」が1位であった。「父親のみ」と「両親ともに」から父親の喫煙率をみると、喫煙群が60.0%、非喫煙群が55.9%であり、この群の50.0%はやや低い傾向を示す。従って、非喫煙の理由として「家庭で禁止」が若干多かったことも考慮すると、モデルとしての父親が非喫煙者であることが喫煙中止の遠因になっている可能性が考えられる。

### 5) 喫煙予備群について

喫煙予備群の周囲の喫煙状態は、「父親のみ」、「兄・姉」、「好きな有名人」が各1件あげられた。回答者が2人と少数で、群として多寡や傾向を検討するのは不相当と思われるので、藤井ら<sup>12)</sup>の報告を参考までに引用すると、回答の多いほうから順に「父親のみ」が62.5%、「友人」が43.8%、「好きな有名人」が31.3%、「尊敬する教師」が18.8%等となっており、回答の少ない方は「母親のみ」、「両親とも」が0.0%で「恋人」が6.3%等となっている。

### 6) まとめ

身近にいる者が喫煙者だと喫煙習慣を獲得しやすいことは一般に認められた事実であり、両親、兄・姉など先に存在する家族の喫煙習慣は後続の者を喫煙者にする可能性が高い。通常、子供の喫煙習慣の有無に大きな影響力を持つ「母親」に関連する回答率が低い傾向にあるものの、回答の上位に家族が位置したことは先行研究と一致する結果であった<sup>9), 19)</sup>。また、喫煙群、前喫煙群の1位である「仲の良い友人」については、喫煙開始のきっかけとしても喫煙継続環境としても、その喫煙習慣の有無が重要視されている<sup>16), 20)</sup>。物理的に身近にいる家族と同様、心理的に身近な存在である友人の喫煙習慣が本人の喫煙習慣獲得を促進するものと考えられる。喫煙が承認された行動であるという意識があるか、仲間意識を補強する意味を持たせて喫煙しているのか等、更に周辺の知見を集積することの必要性が示唆された。

## 6. 喫煙者に対するイメージ

男女喫煙者に対するイメージ評定を喫煙習慣により分けた群ごとに表9に示した。これは、15対の相

表9. 男性及び女性の喫煙に関する評定平均値

	喫煙群		非喫煙群		前喫煙群		喫煙予備群	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
健康的な－不健康な	3.24	3.26	3.76	4.19	3.65	4.22	4.50	5.00
元気な－疲れた	3.06	3.28	3.51	3.68	3.59	3.86	5.00	3.50
強い－弱い	2.50	2.86	3.63	3.16	2.91	3.40	2.00	3.00
真面目な－不真面目な	3.10	3.26	3.30	3.73	3.43	3.71	4.50	4.00
かしこい－おろかな	2.98	3.04	3.28	3.60	3.36	3.71	4.50	4.00
近寄りた－遠ざかりたい	2.82	3.00	3.47	3.60	3.36	3.71	4.50	4.00
くつろいだ－緊張した	2.48	2.54	2.58	3.78	3.48	3.64	3.50	3.00
従順な－反抗的な	3.06	3.10	3.25	2.82	2.65	2.76	2.50	2.00
幸せな－不幸せな	2.76	2.96	3.08	3.37	3.02	3.40	3.00	4.00
堅実な－冒険的な	3.06	3.08	3.22	3.38	3.14	3.36	3.00	3.00
異性に興味のある－異性に興味のない	2.58	2.62	2.80	2.66	2.71	3.69	3.00	3.50
学業成績が良い－学業成績が悪い	3.10	3.14	3.17	3.35	3.23	3.48	3.50	2.50
アルコールを好む－アルコールを好まない	2.43	2.70	2.41	2.43	2.40	2.50	3.00	3.00
情愛のある－情愛のない	2.62	2.98	3.04	3.15	3.12	3.19	3.00	3.00
好感が持てる－好感が持てない	2.64	2.94	3.45	3.79	3.22	3.47	3.00	3.00

※評価尺度については質問紙の設問6及び設問7を参照のこと。

反する概念のどちらにより近いイメージにを抱くかを数字で回答するもので、－2から＋2の5段階の評定を1から5に置き換えて集計した。従って、数値は3を中立として、左側の語に近いイメージを強く抱くほど1に近づき、その反対では5に近づく。2.5より大きく3.5より小さい範囲を中立域として、この範囲に入らない数値を示したものをイメージされた項目として取り上げた。

#### 1) 喫煙群について

男性については「アルコールを好む」(評定平均値2.43。以下同様)、「くつろいだ」(2.48)というイメージを、女性については「不健康な」(3.62)というイメージを抱いている。しかし、中立域の項目が大部分であり、他の喫煙者に対しては性別に関わらず容認も否定もしていないと考えられる。

#### 2) 非喫煙群について

男性については「不健康な」(3.76)、「弱い」(3.63)、「アルコールを好む」(2.41)、「疲れた」(3.51)というイメージを、女性については「不健康な」(4.19)、「好感が持てない」(3.79)、「緊張した」(3.78)、「不真面目な」(3.73)、「疲れた」(3.68)、「おろかな」(3.60)、「遠ざかりたい」(3.60)、「アルコールを好む」(2.43)というイメージを抱いている。マイナスイメージが殆どであり、かつ、喫煙群の評定に比べ項目数が多い。特に、女性喫煙者に対しては8項目あり、女性喫煙者に対しては男性喫煙者に対してよりも強い否定的なイメージを抱いていると考えられる。

#### 3) 前喫煙群について

男性については「不健康な」(3.65)、「アルコールを好む」(2.40)、「疲れた」(3.59)というイメージを、女性については「不健康な」(4.22)、「疲れた」(3.86)、「不真面目な」(3.71)、「おろかな」(3.71)、「遠ざかりたい」(3.71)、「異性に興味がない」(3.69)、「緊張した」(3.64)というイメージを抱いている。女性の喫煙者に対しての評定は非喫煙群と同様にマイナスイメージが殆どであり、かつ、喫煙群に比べ項目数が多い。また、女性喫煙者に対しては明らかに否定的イメージの項目が5項目あり、女性喫煙者に対しては男性喫煙者に比較してより強い否定的イメージを抱いていると考えられる。

#### 4) 喫煙予備群について

喫煙予備群の評定は非喫煙群、前喫煙群と同じような傾向を示すが、回答者が2人と少数で、群と

しての多寡や傾向を検討するのは不相当と思われる。喫煙予備群の評定について藤井ら<sup>12)</sup>の報告では、喫煙予備群の評定は非喫煙群、前喫煙群と同じような傾向を示していた。

5) まとめ

喫煙群は他者の喫煙に関しては、その性別に関わらず強い否定的なイメージを抱いてはいない傾向であった。しかし、男性については他群と共通に「不健康な」、「アルコールを好む」をイメージしていた。非喫煙群、前喫煙群は他者の喫煙に関して喫煙群よりも否定的イメージが強かった。また、同性である女性の喫煙に対しては否定的イメージが特に強まる傾向であった。喫煙群の評定が「くつろいだ」のみであったのに対し、両群共通のマイナスイメージは「不健康な」、「疲れた」、「不真面目な」、「緊張した」であった。

滝野ら<sup>24)</sup>は喫煙に関するイメージを写真によって調べ、女性の喫煙についてのみマイナスイメージが高かったと報告している。また、田中ら<sup>11)</sup>の女子短期大学生を対象とした調査によれば、男女の区別なく喫煙を不可とする者が64.2%、女性の喫煙に否定的な者が25.0%であった。さらに、女性の喫煙を特別視する者が71.3%もあり、女性の喫煙は容認されない傾向にあると思われる。

7. たばこの害に関する知識

表10にたばこおよび喫煙を原因とする害についての正誤判断の正答率を喫煙習慣別に示した。喫煙予備群を除いて群別、カテゴリー別の平均値をみると3群とも三次害が80%台で一番高く、喫煙群、非喫煙群、前喫煙群の順に82%、82%、85%であった。次いで一次害、二次害の70%前後、四次害の40%台であった。正答率は、群による違いは少なくカテゴリーによる違いが大きい、という結果であった。三次害の正答率が高かったのは、妊娠・出産という女性特有の身体機能に関するカテゴリーであったためと考えられる。たばこ害の間接的側面である四次害の正答率が他のカテゴリーに比べ低い値であった。それはこのカテゴリーの項目は、自分自身に直接関連付けてあるいは明瞭な現象として認識する機会が少ないためと考えられる。「火災原因」が他の項目に比べやや高い正答率を示していることは、ニュー

表10. 喫煙・タバコ害に関する正誤判断の正答率 N (%)

	喫煙群 (N=50)	非喫煙群 (N=635)	前喫煙群 (N=176)	平均	喫煙予備群 (N=2)
第一 次害	1) ビタミン等の栄養素の破壊	441 (69.4)	45 (77.6)	(73)	2 (100.0)
	2) 肌の衰えの促進・シワやシミの増加	489 (77.0)	45 (77.6)		2 (100.0)
	3) 喫煙開始年齢の早さと死亡率との関係	504 (79.4)	35 (60.3)		2 (100.0)
	4) タバコ誤飲による赤ちゃんの死亡	431 (67.9)	41 (70.7)		1 (50.0)
第二 次害	1) 主流煙より強い副流煙の毒性	503 (79.2)	47 (81.0)	(68)	2 (100.0)
	2) 喫煙者の子供とぜんそくとの関係	364 (57.3)	33 (56.9)		0 (0.0)
	3) 喫煙者の妻と肺ガンとの関係	403 (63.5)	47 (81.0)		2 (100.0)
	4) 空気汚染との関係	428 (67.4)	35 (60.3)		2 (100.0)
第三 次害	1) 不妊症との関係	379 (59.7)	37 (63.8)	(83)	1 (50.0)
	2) 早産・流産・死産との関係	593 (93.4)	54 (93.1)		2 (100.0)
	3) 低体重児との関係	537 (84.6)	52 (89.7)		1 (50.0)
	4) 障害児との関係	566 (89.1)	53 (91.4)		1 (50.0)
第四 次害	1) 上位を占める火災原因	420 (66.1)	36 (62.1)	(45)	2 (100.0)
	2) 公害対策費用との関係	249 (39.2)	26 (44.8)		1 (50.0)
	3) 国民保険による医療費との関係	181 (28.5)	22 (37.9)		1 (50.0)
	4) 会社の経営に及ぼす悪影響	202 (31.8)	22 (37.9)		1 (50.0)
平均	(68)	(66)	(68)	(67)	

ス報道等で取り上げられる頻度が高いためであろうと考えられる。

非喫煙群の喫煙しない理由の筆頭が「喫煙に関心がない」であることの問題は既に指摘した。他群に比べ特に高い正答率を示してないことから、たばこ・喫煙の害に関する幅広い正確な知識を特に有しているとは考えられず、このことが非喫煙の積極的理由を持たないことの説明に有効ではないかと考えられる。妊娠・出産に関するカテゴリーへの正答率は高かったのであるから、この知識を非喫煙の理由に結付けることが重要と考えられる。

#### IV. ま と め

本研究の対象は岡山県内A短期大学1993年度在籍の女子学生とし、1993年6月下旬から同年7月上旬の間に質問紙により、たばこ・喫煙について調査を実施した。調査時在籍数の50.6%にあたる745通の有効回答が得られた。

回答者の年齢は、18才が59.6%、19才が34.6%、20才が5.5%であり、学年別では1年生が78.1%、2年生が21.6%であった。

結果は以下の通りであった。

- 1) 喫煙習慣別の割合は、喫煙者が6.7%、非喫煙者が85.2%、前喫煙者が7.8%、喫煙予備群が0.3%であった。
- 2) 喫煙群の喫煙開始年齢は、16才が30.0%、15才が18.0%、17才が16.0%であった。1日の喫煙本数は、10本が26.0%、5本が20.0%、20本が14.0%であった。
- 3) 喫煙群の喫煙する理由として多かったのは「ストレス解消や気分転換になるから」が68.0%、「習慣になっているから」が58.0%、「落ち着くから」が48.0%であった。逆に、回答が少なかったものは「大人っぽく見えるから」と「男女平等を主張できるから」で0.0%、「社交の小道具になるから」と「集中力が高まるから」が2.0%であった。
- 4) 喫煙しない理由は、非喫煙群で回答が多かった項目は、「喫煙に関心がない」が71.5%、「健康を害する」が69.9%、「煙が不快」が63.5%、「妊娠出産に悪影響を及ぼすことがあるから」が60.6%であり、前喫煙群では「健康を害する」が67.2%、「妊娠出産に悪影響」が48.3%、「外見が悪い」が46.6%であった。非喫煙群の方が回答率の高い項目が多かった。

回答が少なかった項目は、非喫煙群では「法律で禁止されている」が10.1%、「家庭で禁止されている」が11.5%、「恋人に嫌われる」が14.6%であった。前喫煙群では「法律で禁止」が13.8%、「家庭で禁止」が19.0%であった。両群とも「禁止されているから」という理由は少なかった。

- 5) 周囲の喫煙状況について回答の多かった項目は、喫煙群では「仲の良い友人」が86.0%、「恋人」が56.0%、「父親のみ」が52.0%であった。非喫煙群では「父親のみ」が52.1%、「仲の良い友人」が34.3%であった。前喫煙群では「仲の良い友人」が53.4%、「父親のみ」が46.6%であった。喫煙群における「仲の良い友人」、「恋人」への回答率が高い傾向であった。
- 6) 喫煙者に対するイメージについては、喫煙群は性別に関わらず否定的傾向は少ないと考えられるが、男性喫煙者に対しては「不健康な」、「アルコールを好む」というイメージが3群に共通していた。女性喫煙者に対して非喫煙群と前喫煙群は同様の傾向を示し、男性喫煙者に比べより強い否定的イメージを抱いていると考えられた。その具体的項目としては、「不健康な」、「疲れた」、「不真面目な」、「緊張した」であった。
- 7) たばこ・喫煙の害に関する知識については、妊娠・出産という女性特有の身体機能に関するカテゴリーに関する質問の正答率が高かったが、間接的悪影響に関するカテゴリーの正答率は低かった。

## V. 引用・参考文献

- 1) 厚生省編：喫煙と健康，健康・体力づくり事業財団，7-9, 1993.
- 2) 石黒達也：妊娠喫煙の影響，最新医学1456-1461, 1989.
- 3) 浅野牧茂：喫煙防止への医学，学校保健研究，31(8), 352-361, 1989.
- 4) 平山 雄：地域保健と喫煙防止，学校保健研究，24(12), 568-573, 1982.
- 5) 斎藤麗子：増加する女性・未成年の喫煙，保健婦雑誌，44(4), 289-294, 1988.
- 6) 山口立雄，吉岡信一：禁煙教育ならびに教員の喫煙に対する態度に関する研究，岡山大学紀要第30号，149-170, 1991.
- 7) 古田真司，西村知子，斎藤早苗，大石和代，北島正子，流石ゆり子，稲垣ふみえ：未成年女子の飲酒と喫煙行動に与える要因の検討，学校保健研究，31(5), 235-243, 1989.
- 8) 木根洩英雄，柳 修平：地方都市女子大生の喫煙に対する態度，学校保健研究，31(2), 96-100, 1989.
- 9) 村松園江：女子学生の喫煙行動と生活習慣の関わりに関する研究（第1報，日本公衛誌，32(11), 675-686, 1985.
- 10) 田中 敏，山際勇一郎：教育・心理統計と実験計画法，教育出版，1991.
- 11) 田中純子，杉本文子，前田ひろみ，鎌田俊彦，平岡幸夫，奥田久徳：女子短期大学生における喫煙習慣の形成要因に関する研究，学校保健研究，30(4), 196-204, 1988.
- 12) 藤井真理，高戸仁郎，山口立雄：大学生女子の喫煙習慣に関する研究 -岡山県内の大学生女子について-，岡山体育学研究第1号，55-67, 1994.
- 13) 和唐正勝：アメリカの喫煙予防教育，学校保健研究，24(12), 574-577, 1982.
- 14) 内山 源：喫煙予防と健康教育，学校保健研究，24(12), 562-567, 1982.
- 15) 平山 雄：地域保健と喫煙予防，学校保健研究，24(12), 568-573, 1982.
- 16) Mario A. Orlandi, Lisa R. Lieberman, 中村正和，川畑徹朗，日山與彦，大島 明，竹内宏一：日本における喫煙防止活動の方向性-K Y B教育プログラムの日本への適用-，学校保健研究，31(8), 368-376, 1989.
- 17) 西岡伸紀，岡田加奈子，市村国夫，岡島桂樹，野津有司，川畑徹朗，皆川興栄，岩井浩一，中村正和，望月吉勝，高橋浩之，渡邊正樹，高石昌弘：青少年の喫煙行動関連要因の検討-日本青少年喫煙調査(JASS)の結果より-，学校保健研究，35(2), 67-78, 1993.
- 18) 健康・体力づくり事業財団：平成5年度長寿者保健福祉調査報告書，24, 1993.
- 19) 前掲書1) 211-212.
- 20) 斎藤麗子：女性と喫煙，保健の科学，36(2), 101-105, 1994.
- 21) 藤井真理，高戸仁郎，山口立雄：大学生女子の喫煙に対する態度 -岡山大学1年生について-，岡山大学教養部紀要第34号，237-261, 1994.
- 22) 山本多喜司監修：発達心理学用語辞典，258, 1991.
- 23) たばこ総合研究センター「たばこを考える」会編：たばこを考える2，七 喫煙行動と環境セッティング(石井信治，藤原武弘)，154-180，平凡社，1988.
- 24) 前掲書23)，六 喫煙行動と対人認知(滝野匡悦，中里浩明)，134-153.

## 《資料》 本調査の質問紙

〈設問1〉 あなたの周囲の人の喫煙行動についておたずね  
します。当てはまるものがあれば、いくつでも  
○印を付けて下さい。

1. 父親だけが習慣的に喫煙している。
2. 母親だけが習慣的に喫煙している。
3. 両親ともに習慣的に喫煙している。
4. 兄・姉の中に習慣的に喫煙している者がいる。
5. 弟・妹の中に習慣的に喫煙している者がいる。
6. 祖父母の中に習慣的に喫煙している者がいる。
7. 仲のよい友人の中に習慣的に喫煙している者がいる。
8. 恋人が習慣的に喫煙している。
9. 好きな有名人が習慣的に喫煙している。
10. 尊敬している教師が習慣的に喫煙している。

〈設問2〉 あなた自身の喫煙の習慣についておたずねしま  
す。1つだけ○印をつけて下さい。

1. 習慣的に喫煙しており、今後もやめるつもりはない。(→設問3へ)
2. 習慣的に喫煙しているが、量を減らしたい。(→設問3へ)
3. 習慣的に喫煙しているが、やめたい。(→設問3へ)
4. 習慣的に喫煙していたが、現在はやめている。(→設問4へ)
5. 喫煙の習慣はない。(→設問4へ)
6. 喫煙の習慣はないが、今後は喫煙してみたいと思っている。(→設問5へ)

〈設問3〉 設問2で1または2または3に○印を付けた方  
におたずねします。それ以外の方は、この設問  
には答えしないで下さい。

1. いつから喫煙を始めましたか。( ) 才頃から
2. 1日に何本位の喫煙をしていますか。( ) 本位
3. 喫煙している理由として、当てはまるものがあれば、いくつでも○印を付けて下さい。
  1. おいしいから。
  2. ストレスの解消や気分転換になるから。
  3. 手持ちぶさたの解消になるから。
  4. 集中力が高まるから。
  5. 落ち着くから。

6. ダイエットに効果があるから。
7. 社交の小道具になるから。
8. 大人っぽく見えるから。
9. 男女平等を主張できるから。
10. 習慣になっているから。(→設問6へ)

〈設問4〉 設問2で4または5に○印を付けた方におたず  
ねします。それ以外の方は、この設問には答え  
しないで下さい。  
喫煙していない理由として、当てはまるものが  
あれば、いくつでも○印を付けて下さい。

1. 健康を害するから。
2. 美容に悪いから。
3. 他者の健康にも害を及ぼすことがあるから。
4. 喫煙に関心がないから。
5. 妊娠・出産に悪影響を及ぼす可能性があるから。
6. タバコの煙が不快だから。
7. 恋人、または好きな異性に嫌われるから。
8. 家庭で禁止されているから。
9. 法律で禁止されているから。
10. 女性の喫煙は、外見的に印象が良くないから。  
(→設問6へ)

〈設問5〉 設問2で6に○印を付けた方におたずねします。  
それ以外の方は、この設問には答えしないで下  
さい。  
現在喫煙の習慣が無いにもかかわらず、今後は  
喫煙してみたいと思っておられる理由として、  
当てはまるものがあれば、いくつでも○印を付  
けて下さい。

1. タバコはおいしそうだから。
2. ストレスの解消や気分転換になそうだから。
3. 手持ちぶさたが解消できそうだから。
4. 集中力が高まりそうだから。
5. 落ち着けそうだから。
6. ダイエットに効果がありそうだから。
7. 社交の小道具になりそうだから。
8. 大人っぽく見えそうだから。
9. 男女平等を主張できそうだから。
10. 興味があるから。

〈設問6〉 喫煙する《男性》の一般的なイメージとしてし  
て、次の15項目の反意語のどちらを強く連想す  
るかということについて、5段階評価(－2・  
－1・0・1・2)のどれか1つに○印を付けて

下さい。

	-2    -1    0    1    2	
(1)健康的な	----- ----- ----- ----- -----	不健康な
(2)元気な	----- ----- ----- ----- -----	疲れた
(3)強い	----- ----- ----- ----- -----	弱い
(4)真面目な	----- ----- ----- ----- -----	不真面目な
(5)かしこい	----- ----- ----- ----- -----	おろかな
(6)近寄りたい	----- ----- ----- ----- -----	遠ざかりたい
(7)くつろいだ	----- ----- ----- ----- -----	緊張した
(8)従順な	----- ----- ----- ----- -----	反抗的な
(9)幸せな	----- ----- ----- ----- -----	不幸せな
(10)堅実な	----- ----- ----- ----- -----	冒険的な
(11)異性に興味のある	----- ----- ----- ----- -----	異性に興味のない
(12)学業成績が良い	----- ----- ----- ----- -----	学業成績が悪い
(13)アルコールを好む	----- ----- ----- ----- -----	アルコールを好まない
(14)情愛のある	----- ----- ----- ----- -----	情愛のない
(15)好感が持てる	----- ----- ----- ----- -----	好感が持てない

〈設問7〉喫煙する《女性》の一般的なイメージとして、次の15項目の反意語のどちらを強く連想するかということについて、5段階評価（-2・-1・0・1・2）のどれか1つに○印を付けて下さい。

	-2    -1    0    1    2	
(1)健康的な	----- ----- ----- ----- -----	不健康な
(2)元気な	----- ----- ----- ----- -----	疲れた
(3)強い	----- ----- ----- ----- -----	弱い
(4)真面目な	----- ----- ----- ----- -----	不真面目な
(5)かしこい	----- ----- ----- ----- -----	おろかな
(6)近寄りたい	----- ----- ----- ----- -----	遠ざかりたい
(7)くつろいだ	----- ----- ----- ----- -----	緊張した
(8)従順な	----- ----- ----- ----- -----	反抗的な
(9)幸せな	----- ----- ----- ----- -----	不幸せな
(10)堅実な	----- ----- ----- ----- -----	冒険的な
(11)異性に興味のある	----- ----- ----- ----- -----	異性に興味のない
(12)学業成績が良い	----- ----- ----- ----- -----	学業成績が悪い
(13)アルコールを好む	----- ----- ----- ----- -----	アルコールを好まない
(14)情愛のある	----- ----- ----- ----- -----	情愛のない
(15)好感が持てる	----- ----- ----- ----- -----	好感が持てない

〈設問8〉次の[A]～[D]の文を読み、正しいと思うものに○印を、正しくないと思うものに×印を、わからないものに△印を付けて下さい。

- [A] 1. ( ) 喫煙は不妊症の原因にはならない。  
 2. ( ) 妊娠女性の喫煙は、早産、流産、死産を引き起こす危険性がある。  
 3. ( ) 妊娠女性の喫煙は、低体重児の出生とは直接関係がない。  
 4. ( ) 妊娠女性の喫煙は、障害児の出生とは

直接関係がない。

- [B] 1. ( ) 副流煙（タバコの中から立ち上る煙）の毒性は、主流煙（喫煙者が吸う煙）より弱い。  
 2. ( ) 家族に喫煙者がいる場合、こどもはぜんそくになる可能性が強い。  
 3. ( ) 喫煙習慣のある夫を持つ妻は、肺ガンになる可能性が強い。  
 4. ( ) タバコの煙は、空気汚染の原因とはいえない。  
 [C] 1. ( ) 喫煙によって、ビタミン等の栄養素が破壊されるということはない。  
 2. ( ) 喫煙は、肌の衰えを促進し、シワやシミを増やす。  
 3. ( ) 喫煙開始年齢が早ければ早いほど死亡率が高い。  
 4. ( ) 赤ちゃんがタバコを1本を食べたとしても、死に至るということはない。  
 [D] 1. ( ) タバコの火の不始末は、わが国の火災原因の上位を占めている。  
 2. ( ) 喫煙と公害対策費用は、あまり関係がない。  
 3. ( ) 喫煙率の高さと国民保険による医療費は、あまり関係がない。  
 4. ( ) 喫煙者は、会社の経営に影響を及ぼすことがある。

〈設問9〉あなた自身とあなたの所属校のことについておたずねしますのでお答え下さい。

- 1) 年齢（平成5年6月1日現在）  
 1. 18才 2. 19才 3. 20才  
 4. 21才 5. 22才 6. 23才  
 7. 24才 8. 25才 9. 26才  
 10. それ以上  
 2) 学年（平成5年6月1日現在）  
 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生  
 4. 4年生  
 3) 学校種別  
 1. 4年制大学 2. 4年制女子大学  
 3. 短期大学 4. 女子短期大学  
 5. 専門学校

〈設問10〉喫煙についてのご意見やお気づきのことがありましたら、ご自由にお書き下さい。